



Veritas In Silico

Bringing new hope with mRNA-targeted drugs

2025年12月期 第3四半期 決算説明資料

株式会社Veritas In Silico

証券コード: 130A

2025年11月11日



免責事項

本資料は、株式会社Veritas In Silico(以下「当社」といいます。)の会社情報の説明のみを目的として当社が作成したものであり、日本国、米国その他の一切の法域における有価証券の買付け又は売付け申し込みの勧誘を構成するものではありません。日本国、米国その他の法域において、適用法令に基づく登録若しくは届出又はこれらの免除を受けずに、当社の有価証券の募集又は販売を行うことはできません。

本資料の作成にあたり、当社は当社がその作成時点において入手可能な情報の真実性、正確性及び完全性に依拠し、かつ前提としており、将来情報、外部データ等については、その真実性、正確性及び完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。

将来の事業内容や業績等に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、「目指す」、「予測する」、「想定する」、「確信する」、「継続する」、「試みる」、「見積もる」、「予期する」、「施策」、「意図する」、「企図する」、「可能性がある」、「計画」、「潜在的な」、「蓋然性」、「企画」、「リスク」、「追求する」、「はずである」、「努力する」、「目標とする」、「予定である」又は将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他の類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、本資料作成時点において入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいて作成しており、これらの記述の中には、様々なリスクや不確定要素が内在します。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の将来における事業内容や業績等が、将来に関する記述に明示又は黙示された予想とは大幅に異なることとなる可能性があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。

2025年12月期 第3四半期ハイライト

プラットフォーム事業

- ・ mRNA標的的低分子創薬事業にて各パートナーとの共同創薬研究が進捗し、マイルストーン収入や研究支援金など65百万円(第1～3四半期累計)を計上

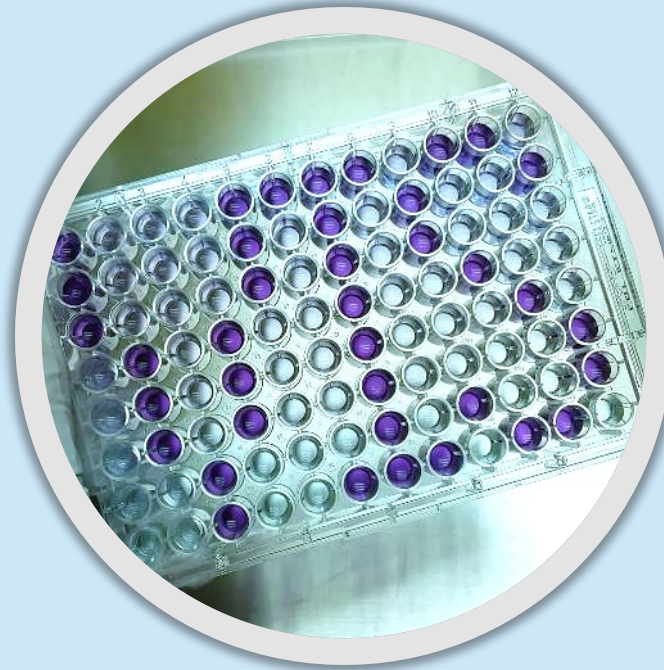
パイプライン事業

- ・ 心臓血管手術後に惹起される急性腎不全への予防薬としての核酸医薬品の開発を進める
- ・ 東京慈恵会医科大学と抜本的な医薬品主作用の亢進と副作用の低減を目的とした共同研究を開始

第3四半期累計の事業収益は65百万円、事業費用は353百万円、
四半期純損失は287百万円

2025年12月期の業績予想を変更

- ・ 2025年10月14日付で2025年12月期の業績予想を修正。新規契約4件中1件の成約が見込めなくなったため。
- ※ 本資料作成日時点において、2025年4月に米国政府が打ち出した関税措置による、当社の事業活動、経営成績および財政状態に対する特段の影響はないと判断。



1 事業ハイライト

Business Highlights

2025年12月期 第3四半期累計(1~9月)の事業進捗



KPI項目

三菱ガス化学との 共同研究契約を締結

核酸医薬の創出及び製造方法確立を目的とする共同研究の実施について合意
→詳細はスライドP.6

KPI項目

mRNA標的核酸医薬 自社パイプラインの対象疾患決定

当社で最初の自社パイプラインとして、対象疾患を心臓血管手術後に惹起される虚血性の急性腎不全とした核酸医薬のプロジェクトを開始
→詳細はスライドP.7

東京慈恵会医科大学との 共同研究契約を締結

抜本的な医薬品主作用の亢進と副作用の低減を目的とした共同研究開始

塩野義製薬との共同創薬研究 にてマイルストーン達成

mRNA標的低分子創薬の共同研究にて、特異的な作用を示す高活性の化合物取得を、塩野義製薬の高い基準にて実現
→詳細はスライドP.8

ラクオリア創薬との共同創薬研究 にて対象遺伝子の研究範囲拡大

複数の遺伝子を対象に複数回のスクリーニングを行い、それぞれの遺伝子に対して創薬研究の起点となる低分子化合物を取得

創薬プラットフォームの基盤技術特許 2025年7月米国で特許査定

創薬プラットフォームibVIS®の核となる、標的mRNAの部分構造と存在確率の解析、創薬標的に適した部分構造の同定、およびそれを用いたスクリーニングに関する特許



KPI項目達成

国際学会の招待講演に CSOが登壇



20th Annual Drug Discovery Chemistry
(米国カリフォルニア州 San Diego)にて

国際学会にて 新川崎研究所長が発表

新川崎研究所 研究員2名増員



新メンバーを迎えた新川崎研究所の研究員たち

三菱ガス化学との核酸医薬の創出・製造方法確立をめざした共同研究開始

プレスリリース https://www.veritasinsilico.com/pressrelease/20250703_3825/



目的	RNAを標的とした核酸医薬(ASO)の創出と製造方法の確立
共同研究期間	3年間
技術基盤	Veritas In Silicoの創薬プラットフォーム「ibVIS [®] 」を活用
役割	VIS: ASO化合物の取得 三菱ガス化学: 製造方法の確立
特徴	QbD(Quality by Design)を創薬研究の初期段階から導入し、迅速な臨床試験への移行を目指す



製造後の核酸医薬品のイメージ

- VISにとって初の核酸医薬創薬の事業化
- 2025年度のKPIとして設定している「新規契約4件獲得」の2件目達成
- 開発候補ASO化合物を取得できた場合、VISのパイプライン2本目創出となる

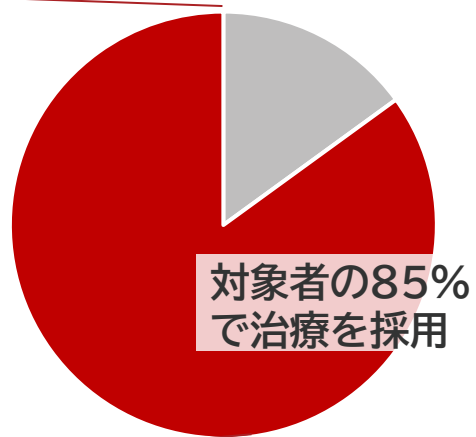
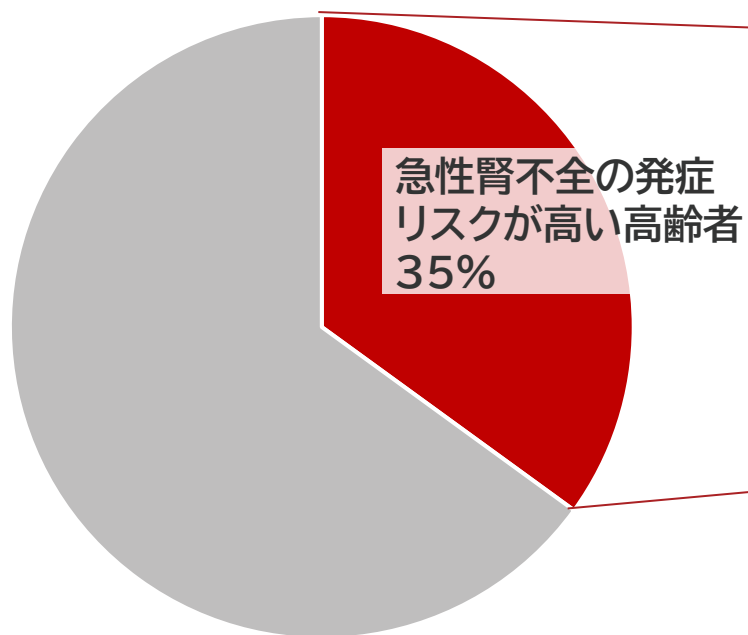
心臓血管手術後に惹起される急性腎不全への予防薬としての核酸医薬品

対象疾患である虚血性急性腎不全は、心臓血管手術時の血流低下(虚血)により腎臓が損傷を受ける疾患。

現在有効な予防法は存在しておらず、本治療法の開発により発症を防ぐことができれば、患者さまのQOL向上に大きく貢献できる。

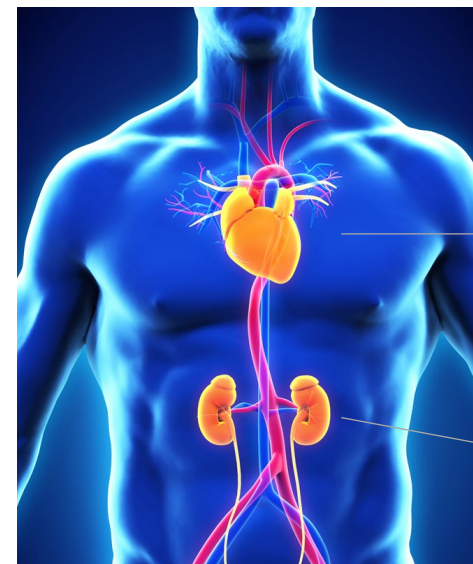
日本国内における心臓血管手術
約 50,000件/年

日本国内における予防対象
約 14,900件/年



ピーク時売りあげ
年間売上約150億円

※薬価100万円を想定



心臓の血管手術では、
一時的に血流を止めるため、
虚血により臓器が損傷する。

虚血の影響を受けやすい
腎臓が損傷し、
急性腎不全を引き起こす。

将来的には、さらなる売り上げ拡大を目指す

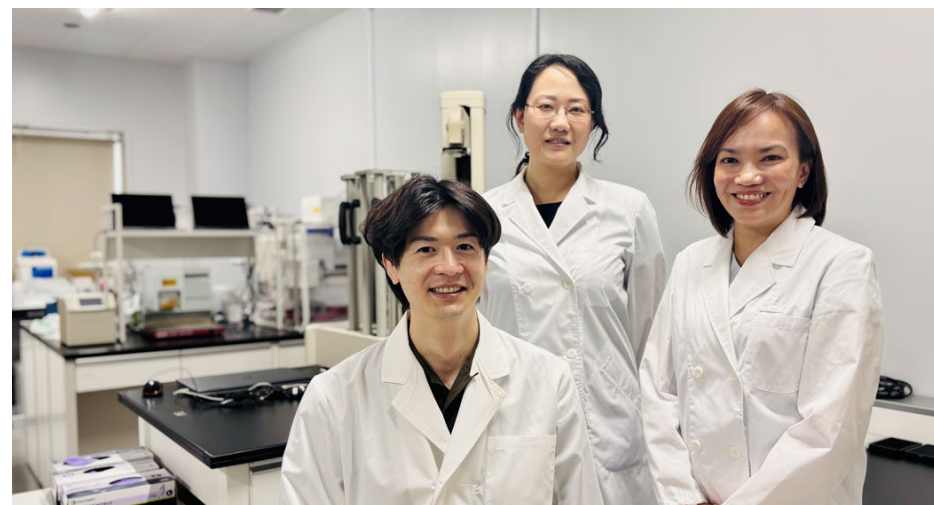
- 1) 国外展開の推進
- 2) 発症リスクが高いご高齢の患者さま以外への提供
- 3) その他の虚血性疾患に対する適応拡大

塩野義製薬との共同研究にてリード化合物につながる化合物取得に成功

プレスリリース https://www.veritasinsilico.com/pressrelease/20250523_3680/



創薬研究進行段階



本件共同創薬研究の中心メンバー

- タンパク質標的では困難だった特異的な作用を示す高活性の化合物取得を、塩野義製薬の高い基準で実現した。
- 未知のmRNAに対して、当社の技術で独自に発見したmRNA上の構造を創薬対象として画期的な成果が得られた。
- 当社の創薬プラットフォームibVIS®により、「mRNAを標的とした低分子医薬品」が一層実現に近づいた。

ハイブリッド型ビジネスの収益ポテンシャル

プラットフォーム事業およびパイプライン事業の契約にもとづき短期的(創薬研究期間中)、中期的(開発期間中)な事業収益源を確保している。医薬品の上市後には、長期的(販売期間中)に販売額に応じたマイルストーン収入のほか、数%のロイヤリティ収入(下図に含まれない)を見込む。

契約一時金・研究支援金・ 研究マイルストーン



- 取得済収益 (～2025年9月)
- 短期的収益 (創薬研究期間中に受領可能性)

開発マイルストーン



- 中期的収益 (開発期間中に受領可能性)
- 長期的収益 (販売期間中に受領可能性)

売上マイルストーン



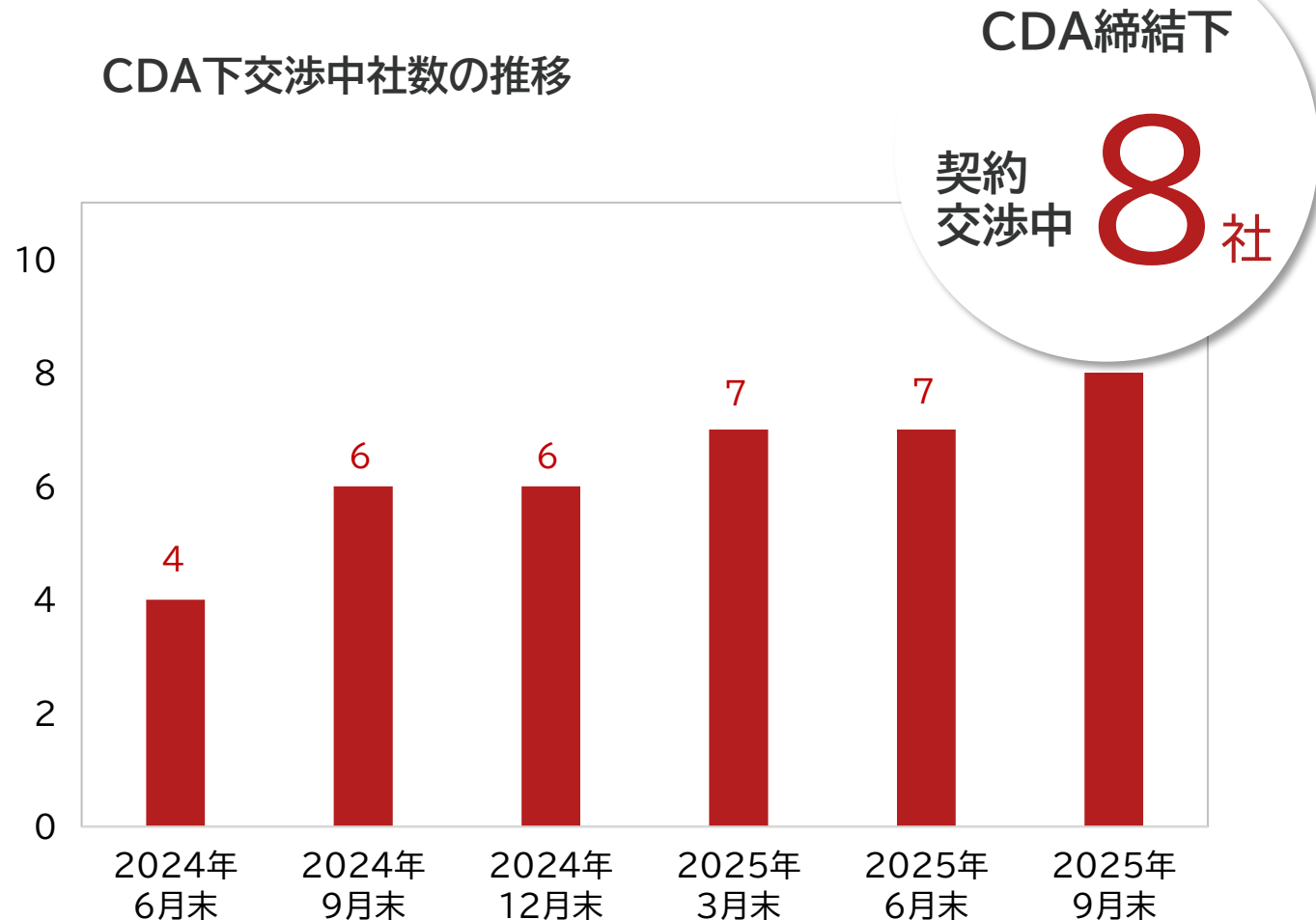
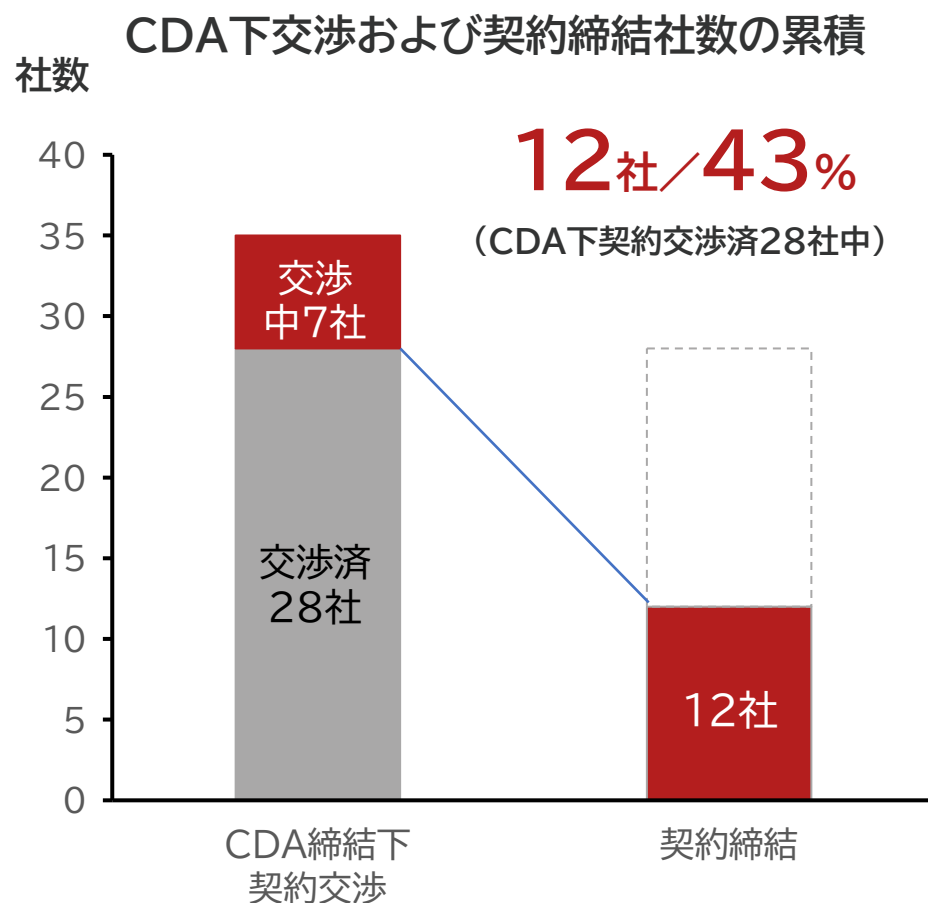
2025年9月末現在

➤ 新規契約による収益拡大

(注)取得済総額は、共同研究により取得した収益を含む。マイルストーンは、いずれも既存のプロジェクトが全て成功した場合の最大値を示している。創業の成功確率は相対的に高くはなく、現実的に全てのプロジェクトが成功するわけではない点に、十分留意が必要である。

年間2社との新規契約締結に必要な秘密保持契約数の確保

秘密保持契約(CDA)を締結した製薬会社のうち、新規契約締結まで至った確率は約43%、契約締結に至るまでの期間(中央値)は14か月。
2025年以降も毎年2社と契約締結するため、その数を期待できるCDA数を確保するように事業開発を展開している。



2025年12月期 第4四半期(10~12月)スケジュール

事業活動

知財

その他

KPI項目

新規契約の締結
(2025年度 3件目)

パートナー企業との
共同創薬研究の推進

各種展示会への参加



ジャパン・ヘルスケアベンチャー・サミット(JHVS) 2024参加の様子

KPI項目

自社パイプライン
1本目(核酸医薬品) 特許出願

将来の事業基盤となる
知財の強化・拡充

学会への参加

CBI学会2025年大会

第52回国際核酸化学シンポジウム
・日本核酸化学会第9回年会

第42回 メディシナルケミストリー
シンポジウム

8th Annual RNA-Targeted
Drug Discovery &
Development Summit

新川崎研究所
移転準備

2025年度中のKPI達成に向けた進捗状況

下期に計画していた新規契約4件目の締結が未達となったため、2025年度は最終赤字を見込む。
残りの新規契約1件は、第4四半期中に締結予定。自社パイプラインは、第4四半期中に特許出願を予定。



KPI項目達成



KPI達成を目指す

新規契約
(年度内に4件)



LCC
Technologies



三菱ガス化学



残り1件は年度内達成を目指す



自社パイプライン創出
(年度内に1本)



年度内の特許出願を目指す

事業収益額



黒字回復未達

2025年6月末現在



2 財務ハイライト

Financial Highlights

2025年12月期 第3四半期業績概要

事業収益は、mRNA標的 low 分子創薬事業にて各パートナーとの共同創薬研究が進捗し、マイルストーン収入や研究支援金など65百万円を計上。
事業費用は、研究員の増加に伴う人件費の増加等により、前年度より23%増の353百万円を計上した。

(要約)損益計算書 (単位:百万円)

	2024年度 第3四半期実績	2025年度 第3四半期実績	増減額	増減率	2025年度第3四半期 主な内訳 (単位:百万円)
事業収益	165	65	△99	-60.1%	うち マイルストーン収入 研究支援金等10 55
事業費用	286	353	66	23.3%	
営業利益	△121	△287	△166	—	うち 研究開発費 販売費及び一般管理費153 200
営業外損益	△21	4	26	—	
経常利益	△143	△283	△139	—	
四半期純利益	△145	△285	△139	—	

四半期業績の推移(FY2023Q3～FY2025Q3)

(要約)四半期会計期間損益計算書 (単位:百万円)

QoQ	FY2023 Q3	FY2023 Q4	FY2024 Q1	FY2024 Q2	FY2024 Q3	FY2024 Q4	FY2025 Q1	FY2025 Q2	FY2025 Q3
事業収益	29	81	32	83	49	29	24	19	22
事業費用	80	83	97	85	104	120	105	124	124
営業利益	-51	-2	-65	-1	-54	-91	-81	-105	-101
営業外損益	-1	0	-22	0	0	1	1	1	1
経常利益	-53	-1	-87	-1	-54	-90	-79	-103	-100
四半期純利益	-53	-2	-87	-2	-55	-90	-79	-104	-101

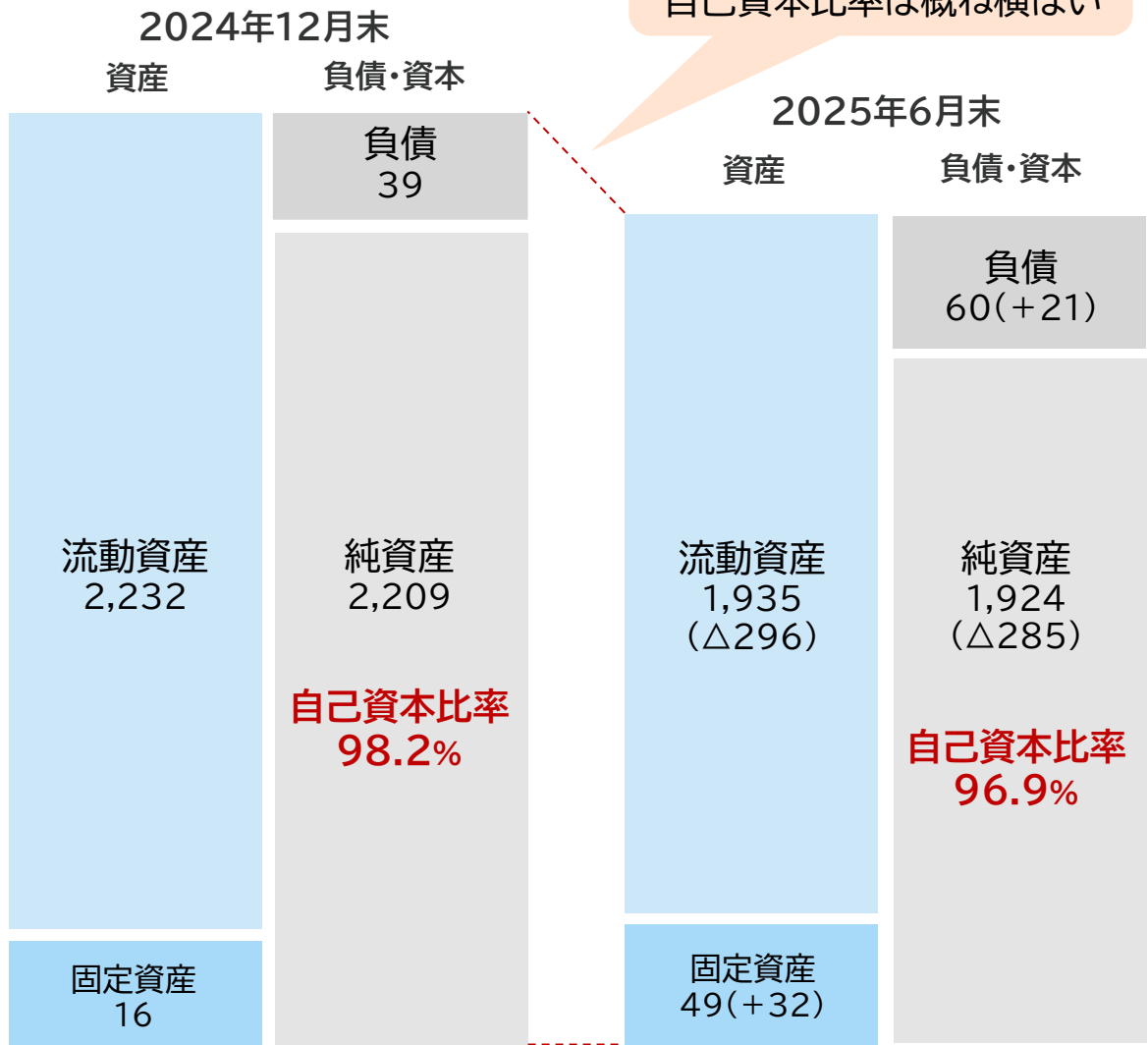
財務状況の推移

2025年第2四半期に、資本政策の柔軟性・機動性を確保するため、資本金の額を77百万円から10百万円に減少(減資)させた。

貸借対照表の推移 (単位:百万円)

	2024年度 期末	2025年度 第3四半期末
現金及び預金	2,173	1,902
流動資産合計	2,232	1,935
有形固定資産	14	25
固定資産合計	16	49
資産合計	2,248	1,984
負債合計	39	60
資本金	77	10
純資産合計	2,209	1,924
負債・純資産合計	2,248	1,984

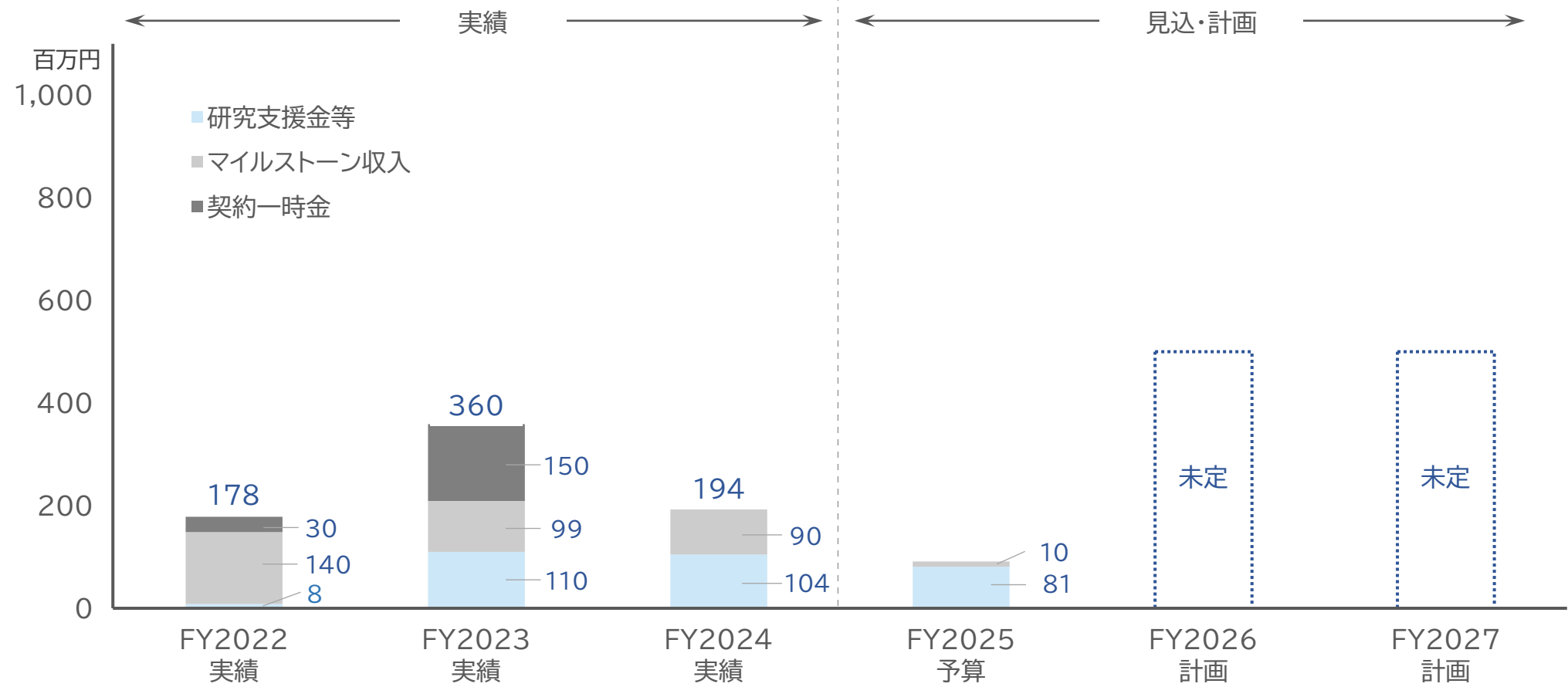
バランスシート推移 (単位:百万円)



※本図のバランスシート項目の割合は概念的なイメージであり、正確な数値を反映したものではない。

各年度 事業収益の実績及び見込/計画

2025年10月14日付で2025年12月期の業績予想を修正。新規契約4件中1件の成約目途が見込めなくなったため。
通期の事業収益は91百万円を見込む。



(注) グラフの2025年度から2027年度は、契約締結が見込める顧客・案件別の期待収益額の積み上げをもとに作成している。計画の数値は非開示



理念

mRNA標的創薬で 希望に満ちたあたたかい社会の実現を

創薬のフロンティアを
切り拓くパスファインダー
(Pathfinder)として

どんな疾患の患者さまも
最適な治療が
受けられるように



Veritas In Silico